



主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒の育成
 ～特別支援教育の視点を生かしたコミュニケーション能力の向上による居場所ひろげ・ふかめ～

研究仮説
 特別支援教育の視点を生かしてコミュニケーション能力の向上を図れば、児童生徒一人一人の実態に応じた授業及び生活における「居場所」づくりがさらに発展し、自分らしさを発揮して他者と主体的に関わり合って伸び合おうとする児童生徒の育成につながるであろう。

居場所ひろげ・ふかめ

授業における居場所づくり

- ①「分かった」「できた」を実感させるための取組の重点が、学びを深める。
- ア 導入で児童生徒の「なぜ?なぜ?」を引き出す。
 - イ 必要感のある「対話」、効果的な「ICT活用」の場を設定する。
 - ウ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により、イをより深い自己選択・自己決定につなげる。→主体的・対話的で深い学びを実現する。
 - エ 「発展的振り返り」により、授業と家庭学習を線でつな

コミュニケーション能力の向上

- ①安心・安全な学級、授業づくり
- ②コミュニケーションマインド
- ③コミュニケーションスキル

生活における居場所づくり

- ①登校していない実態に応じた居場所づくり（本音で話せる・興味関心に沿うために）
- ②登校しているが、教室に行けない実態の応じた居場所づくりよき理解者の存在・「やってみよう」を引き出す → S S R・「かがやきルーム」の充実
- ③教室にいるが、教室が居場所とは感じていない実態に応じた居場所づくり

特別支援教育の視点